

病 気 と 青 汁

防ぐにも治すにもしっかり飲もう

医学博士 遠藤 仁郎 著

—(青汁叢書第五輯)—

遠藤 青汁の会 発行

再生不良性貧血

難病の一つ。

さいきんふえた。以前にも、あるにはあったが、むしろ、珍しい病気だった。

本態は、骨髓の機能がおかされ、血液(赤血球、白血球、血小板)の再生能力がおとろえ、ついになくなってしまうもの。いろいろの薬剤や放射線によるものが少なくないし、かいつも原因のわからないものもある。

いずれにしても、骨髓の抵抗力がよくなり、やられやすくなっているのが、根本的原因(素質)にちがいない。そして、それには、遺伝関係も、もちろんあろうが、環境や日常生活の不自然化、不健康化も、かなりあずかっている。

すなわち、産業廃棄物、排気ガス、粉塵、降下性放射能物などに汚染された空気を吸い、水を飲み、危険な農薬や添加物に汚染された食品の摂取を余義なくされていること。また、穀、肉、糖、脂にかたより、高度に加工(精製、調理)された不完全食によって、一般的に抵抗力が低下していることなどによって、骨髓障害の素地ができていたり、あるいは直接障害原因にもなっているのではないだろうか。

ともあれ、本症にたいしては、輸血をくりかえし、副腎皮質ホルモン、蛋白同化ホルモンをもち

い、抗生剤で感染防止をはかるほかには、これという適確な治療法はないのだから、できるだけ有害因子、放射線や薬剤の乱用、不良な環境をさけることはもとより、農業や工場、鉱山廃水に汚染され、あるいは各種の化学薬品の添加、または混在のおそれのある有害飲食物は極力さけること。

そして、自然のまま、あるいは、なるべく自然にちかい、安全な食品のみからの完全食をとり、栄養の合理化(完全化、安全化)をはかって、いわゆる瘀血(血の濁り)を除き、全身の、そして、骨髓の機能のいくらかでも回復しやすいよう、つとむべきであろう。

この意味で、緑葉食青汁を中心としたイモ・マメ・ナツバ・青汁食といった完全食に徹底すること。あるいは、せめて青汁だけでも、毎日三合(もとのナツバ七五〇グラム)以上。出来れば五〜六合のんでみることだ。

また、そのようにして、おそらく回復不能であろうと、サジをなけられていたのをさえ、ほとんど完治にちかいまでによくなった実例もある。

(四八・一一)